

## 利用条件(夢の家)

夢の家は、宿泊体験施設であると同時に美術作品であるため、他の宿泊施設にはない利用条件を付けさせていただいております。ご利用の際はご了承下さい。

- スタッフは夜間は常駐しておりません。夜間の戸締り、貴重品の管理はお客様ご自身でお願いします。
- 夢の家は生活自体を堪能いただくため、布団の上げ下ろしや食器洗いなどすべてセルフサービスとなっております。
- 夢の家には、バスタオル、布団、シーツ、浴衣(アブラモヴィッチ指定)は用意してありますが、それ以外はお客様でご用意をお願いします。
- お客様の不注意により作品を破損した場合、賠償いただく旨の同意書を交わさせていただきます。
- 4名以下でご利用の場合、他のお客様との同泊をお願いすることもあります。

## 施設案内(夢の家)

- 施設：夢を見るための部屋4室(赤・青・緑・紫)、展示室、いろいろの部屋、洗面所、浴室、トイレ
- 設備：冷蔵庫、寝具、簡単な調理器具と食器
- 食事：夕食2,000円、朝食500円で別途賜ります
- 宿泊：チェックイン午後5時、チェックアウト午前9時  
※変更される時期があります。予約時にご確認ください。
- 料金：大人一人6,000円 小学生3,000円 小学生未満無料
- 定員：4名(原則として一室1名、但し一室2名の利用が可能)  
赤・青・緑・紫の部屋から一室選ぶ

## 上湯集落地図



## 施設案内(共通)

開館期間：4月下旬～11月下旬(12月～3月は冬期休館)  
休館日：木曜日(休館日が祝日の場合は翌日)  
見学時間：午前10時～午後4時まで(12時～1時はお昼休みです)  
見学料金：大人400円 小人(小学生)200円 小学生未満無料  
団体割引有(11人以上)  
上記金額で上湯4作品全てがご覧になれます

- ※管理人が夢の家に居りますので、見学の際はまず夢の家へお越し下さい
- ※予告なく内容を変更することがありますので、ご利用、見学の際はお問い合わせください

## 問い合わせ・予約申込先

十日町市 松之山支所  
地域振興課「夢の家」宿泊担当  
〒942-1492  
新潟県十日町市松之山 1212-2  
TEL 025-596-3134  
FAX 025-596-2255

## 交通

お車で：関越自動車道 塩沢石打ICより R353で約60分  
越後川口ICより R117→R253→R353で約60分

北陸自動車道 上越ICより R253→R353で約60分

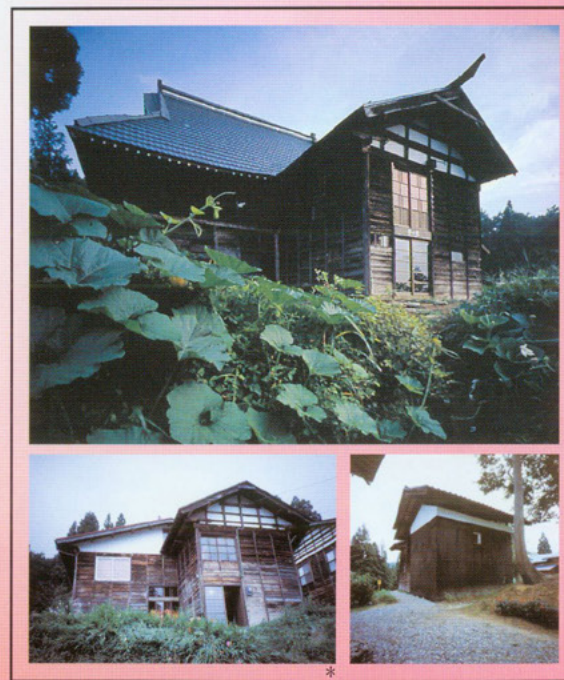
上信越自動車道 豊田飯山ICより R117→R353で約60分

電車で：上越新幹線 越後湯沢駅より ほくほく線まつだい駅下車  
北陸本線 直江津駅より →松之山温泉行きバス終点  
で下車  
→徒歩約15分

大地の芸術祭  
越後妻有アートトリエンナーレ

# 上湯物語

夢の家  
Dream House  
収穫の家  
Harvest House



利用案内  
Guidance

# 上湯4作品

松之山温泉から坂を登って15分ほど歩いたところに上湯集落はあります。上湯ははまだ上水道を引いておらず、自然の地下水を飲料水とする水のおいしい集落です。  
この上湯に、2000年の大地の芸術祭で完成した「夢の家」に引き続き、2003年に「収穫の家」「エリクシール/不老不死の薬」「米との対話」という3作品が新たに作られました。4人の女性アーティストによる作品が上湯に新たな風を吹き込んでいます。



\*  
マリーナ・アブラモヴィッチ  
Marina Abramovic



\*  
ジャネット・ローレンス  
Janet Laurence



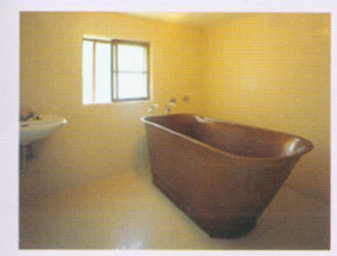
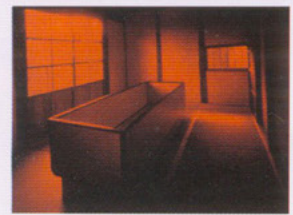
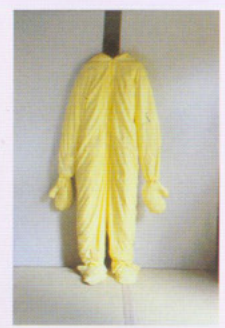
\*  
ローレン・バーコヴィッツ  
Lauren Berkowitz



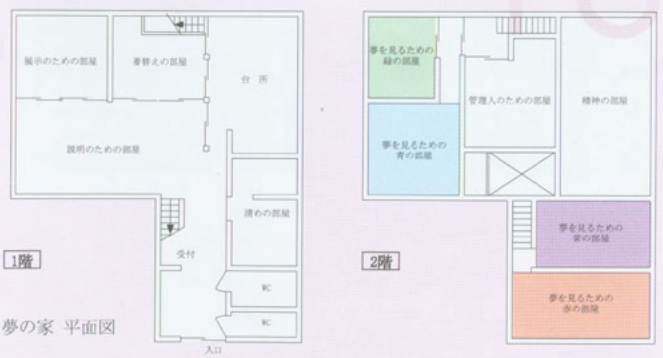
\*  
ロビン・バックン  
Robyn Backen

## 夢の家

夢の家/マリーナ・アブラモヴィッチ  
あわただしい現代生活の中で、“自分自身と向き合うために、夢を見てほしい”との願いから生まれた宿泊体験施設です。ここでは、彼女がデザインした特製の服を着て眠り、見た夢を「夢の本」に綴ります。宿泊者によって書き継がれた夢が作品の一部になります。

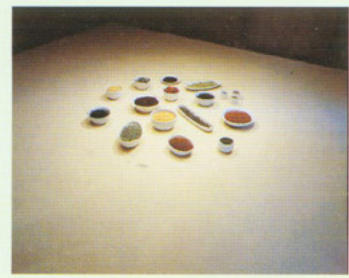


エリクシール/不老不死の薬/ジャネット・ローレンス  
「夢の家」の横にある蔵が、ガラス張りの内装に改装され、上湯に伝わる薬草を用いて薬草酒ショットバーとして新しい空間となりました。



## 収穫の家

収穫の家/ローレン・バーコヴィッツ  
古い民家を改装し、庭とあわせて内外のつながった新しい空間になりました。室内は地域で採れる草花や土、石でデザインした「信濃川」「織物」「風景」「収穫」という4つのテーマの空間になっています。



米との対話/ロビン・バックン  
光ファイバーを織り込んだ畳と、モールス信号を使った電飾でメッセージを発信します。この発信される解読不能なメッセージは、農作業をベースにゆったりと流れる時間の中に置かれることで、私達のあわただしい日常を問いただす装置になります。



写真：安斎重男  
photo:Shigeo ANZAI (\*の写真は除く)